

委員会だより

<7月5日(日) 14名出席>

【1】財務報告：98年6月度決算報告(甲斐さん)
特記事項：6月単月収支は、+77,881となり久しぶりに大幅黒字となったが、これは本来6月に行うべき本部分担金支払いが延びている為。

◆建設会計で、第1回目の利息支払(¥195,000)が6月に行われた(年2回)。

◆一粒会より、「7/5現在の本年度集計状況(累計)は265,453円」との報告あり。

【2】議題：

(1) 敬老会について論議：

信徒総会に於いて、目的と効果を吟味すべしとの意見が出されたが、審議の結果として、計画通り実施することに決定。(9月第2日曜日、予算は¥150,000(注：昨年度より¥20,000増))
記念品等については、石井さん、小山さんに一任する。

(2) 夏期学校の件：本年度は開催せず。(石井さん)

(3) 第5地区宣教委員会(6/7)報告：七浦さん、町田さんが出席。

司教様から出された4つの優先課題：「信徒の養成」「青少年司牧」「アジア第三世界とのかわり」「環境問題」を中心とした、委員会での議論の報告。

今後、中和田教会としての取組みの素案を、七浦さんと町田さんでつくり、全体に諮っていく。

(4) 幼稚園 年長、年中の集り(6/27)の結果報告(石井さん)：

お母さん方、小さな子どもを入れて、合計11名に参加頂いた。歌、紙芝居など楽しく過ごすことが出来た。(子ども達の目が輝いていた。)

(5) 第1回目のバザー委員会を6/20に開催(福島さん報告)：

◆開催日は10月25日

◆バザー券は25万円分発行する。(抽選の商品は昨年並)

◆模擬店については、例年通り、壮年会と婦人会の協力をお願いする。

(6) 今月の予定：

◆7/20に戸塚教会献堂式

◆7/12に第5地区一粒会集会

(7) スリッパの買替時期であることに関連して、御聖堂の土足立入り是非の議論：

◆まずは、土足化の方向で(試行含めて)検討を進めることに決定。

(注：もともと、御聖堂の床の補修工事をした時

の前提は、土足化であった。)

(8) 聖堂入口のマリア様の「メイクアップ」の件：
その後の調査で、とても素人の手におえないことが判明。7/19の庭の手入れの時に補修することにしてはいたが、これは取り止めとする。

壮年会だより

<7月19日(日) 11名出席>

◎恒例の教会敷地内外の雑草刈り取り、植木手入れを行いました。

植木の枝払いをしたところ、武田さんの2トン積みトラックが満載となりました。武田さん御夫妻にはご多忙中のところ、本当に有り難う御座いました。

作業終了後、ささやかな慰労会を持ちました。

◎尚、当初予定していたマリア様像のメイクは素人には手に負えないことが判明し、一時延期することとなりました。対応策については教会委員会と共に検討の予定です。

婦人会だより

<7月19日(日) 35名出席>

◎委員会報告

◎バザー

①食堂について

婦人会として下記の4点を実施したい旨、バザー委員会に提案いたします。

牛井 フランクフルト 和菓子 ケーキセット

②引き続き、自主製作品、新品の不要物の御協力をお願いします。

◎岩崎さんより

聖母の園のお祭りのボランティアの募集のお願いがありました。

◎阿部さんより

一粒会の報告がありました。

バザー奉仕日

8月20日(木) 10:00~15:00

次回例会は9月20日(日)、次回当番はA地区です。

お知らせ

卓球大会

8月30日(日) 9時御ミサ後開催。

ふるってご参加下さい。応援だけでも大歓迎!



編集後記

皆様より多くの原稿をお寄せ頂き感謝申し上げます。特に最近婦人会からの原稿も増え、幅も広がり、楽しくお読み頂けるものと思います。これからも気軽に御投稿お願い致します。

三年ほど前、私がアメリカ出張の折、偶然にも横浜駅で成田エクスプレスを待つT.K.さんとお会いしました。南米に行かれるとのことで、私はてっきり御主人が単身赴任中で会いに行かれるのかなと勝手に勘違いしていましたが、お友達との楽しい旅行だったのですね。続きが待たれる旅行記です。

請うご期待!!

(㊟)

今月の予定

聖母被昇天 8月15日
卓球大会(第9回) 8月30日
サロン 8月9, 23日
レジオ 8月は休み
9月11, 18, 25日



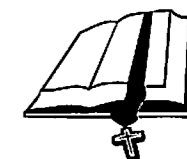
第239回

中和田カトリック教会
広報委員会発行
泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141
1998年8月2日



思いワズラウ事ばかり 2

山崎 正俊



インドとかパキスタンとかで、核実験が地下でおこなわれたということがあったら、核兵器を数え切れないほどに持っている大国からの非難に会い、多くの国が同調して、なんだか圧力を加えることになり、日本もその尻馬に乗ると、「何を云うか、おまえは、アメリカの核のカサの下におりながら」などとやりかえされたそう。アメリカ合衆国やもとのソビエト連邦などの間では、軍事費のかかりすぎで困り、核軍縮の会議をしたこともあり、まだその害からまぬがれていないのに、平和利用などと宣伝して、弱い人の犠牲のうえに原子力発電所などをふやし、平気でいる。

あの公会議の議題として、平和のためには「核戦力」が必要だという宣言をしてほしいなどという提案をした司教たちがあった国では、昨年日本と同調して、同時刻に平和のミサを捧げて祈ることが新聞に出ていたそう。それでも、その国の政府が、より強力な核の地下実験をおこなって恥じないのに、その司教たちが、それを非難しているという通信はないようだ。——日本でも、それについては、公式に何も聞けず、反感を表明している人はあっても、「弱い国いじめ」の声だけ。

反戦・反軍・反国家の人をおどして、国民をだまらせており、そんなに困っているのなら、何かをしったり叫んだりするはずだが、そのようなことはなく、とにかく従っているのを見れば、我慢の度は軽いのではないかなどときめこんでいる。——あのトルストイ爺さんは破門され、葬儀さえ出してもらえなかったそうだが、仲直りしてくれ、葬儀はしてあげるからと申し込んでも、いまさらなにごとかと断ったそう。生誕百七十年の記念式典が、近くおこなわれるという。——私は幼いときから、その著作を読み、いまも、そのいくつかを忘れることができないのに、イエズスさまは、いま生きておられたら、あのときの皇帝や主教と、同じことをなさったろうか。

若し書がそれほどのことにはならないのなら、東京の真ん中で、研究でも実験でもしてみなさい。いまの私たちが、どんなに苦しめられているかを見てくださると、太平洋の小さな島の代表者が訴えに来ても、たいした責任を感じなかったとは、おどろいたことだ。

原子力を武器として持っていることに安心しているのは、これまでの歴史の主流が、力の強い者によって造られているから、それが真向から、イエズスさまの教えに逆らっていることには気がつかない振りをしているのだろうか。あらゆるものごとは、人間が生きつづけるために、神様がお定めになったことだとは、まことに得手勝手な犯罪の基準点だ。

自分たちにとって善いことは、何事も、誰にもよいことか。自分がそうあってほしいと思うことを、その理由から、他の人にもしてあげなさいという教えなどは、そのことでは大間違いのものとなりかねない。基準はそんなところにはないことに、はやく気がつかなければならなかったのに、どうして、私たちはこれほどにも、心ニブイ者でありえたのだろうか。『我が身をツネって、ヒト(他人)の痛(イタ)さを知れ』——他人のことを思いやれないということは、不幸のはじまり。

(一九九八七二七)

南米旅行の思い出

(パラグアイ、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル)



T. K.

パラグアイの首都アスンシオンは春の季節、9月中旬の雨降りの夜行便で成田を出発してから、約30時間の長い空の旅だった。

シルビオベティロン国際空港に着いたのは予定時刻を3時間オーバーの午後2時、税関には麻葉犬が係の人に引かれてウロウロしている。持込み荷物はすべて開けさせられ、目と手で厳重なチェックを受ける。

入国ロビーで旅行社の加藤さん夫妻が手をふって待っていてくれる。初対面だが、ここまで来る日本人はジャイカの人達か、企業関係者が殆どで、さすがおぼさん3人組は一目でわかったらしい。

宿泊先のホテルから外を眺めるとラパーチョという桜に似た花が、緑の木立の中でひとときわあざやかに映えている。日本の初秋から旅立ってきた我々は、今年2度目の春を満喫するという不思議な体験となる。

加藤さんには、これからの旅程変更で着く早々大変手数をかけてしまう。今回の旅程はボリビアを入れずアルゼンチンに重点を置くということで出発したはずだったのだが。

長野でアルパ(南米のfolkloreで使用する民族楽器でインディアンハープとも言う)奏者として活躍しているN、中学教師のY、2人の親友は、どうしてもボリビアを入れたいと主張。自分と言えば、50歳を機に一念発起したことが成就したことへのごほうびとして、又家族の「留守は何かなるから」という温かい理解に感謝して、職場の調整もすませ慌ただしく飛び出した15日間の旅、未知なる南米への憧れだけだった。

彼女達は2度目の南米旅行、ボリビアを入れて練り直すべく熱い想いがあり、変更シナリオを密かに温めて出発してきたことを知らされる。(今回の旅行にアドバイスをいただいたNのアルパの師の手前、計画の段では入れることが出来なかったとのこと)

カラコルム、キリマンジャロ等の高山にも挑んできたYが高山病の苦しみだけとは言う。それでもボリビアへと入れ込む訳は現地に着いて納得することになるのだが。

高山病という三文字に内心不安になるが、まあ何とかなるだろうと開き直り変更旅程に同意する。

日本人移住者が経営する宿泊ホテルのレストランで夕食、まずは地ビールで乾杯。

サンパウロで乗り換えたローカル線が滑走路を走り出し離陸体勢寸前に機体にいやな音、同時に機内アナウンスが入り異常があるので引き返すという。あの時もし飛び立っていたらこうしてビールを酌み交わすことは永久になかったかも。

おでんと焼き鳥、イカの丸焼き、親子丼にみそ汁、香物と続く。三人で顔を見合わせ「ねー、今私達どこに居るのかしら？」と大笑い。

13時間の時差(サマータイム1時間)も、機内で二人から羨ましがられたりあきれかえられたりした程よく眠ったのでさして苦にならない。

部屋のうす汚ささえがまんすれば、深めの室内風呂、熱い湯もたっぷりシャワーから勢い良く出る。セルフサービスの朝食はパッチリの和食、果物も豊富に出されている。そしてなんと言っても貧乏旅行の我々にとって宿泊料の安さが嬉しい。

フロントの現地人女性は流暢な日本語でやさしく応対してくれる。目下の所Nのスペイン語の出番はあまりないけど、20年前ペルーに在住していた彼女は記憶の糸をたぐりながらスペイン語を呼びさましている最中とのことで今後に期待することにしよう。

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
8/2	年間第十八主日	小野	美底	9/6	年間第二十三主日	石井	森田
8/9	年間第十九主日	青年会	森田	9/13	年間第二十四主日	青年会	大宮
8/16	年間第二十主日	婦人会役員	大宮	9/19	年間第二十五主日	婦人会A地区	岩淵
8/23	年間第二十一主日	上野	岩淵	9/27	年間第二十六主日	井上	美底
8/30	年間第二十二主日	婦人会役員	美底				

※当番の方は10分前には集合して下さい。
 ※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。(萩原:TEL 802-6258)



NRC大会に参加して

花坂 昌子

今年は群馬県東端にある草木湖畔「サンレイク草木」の宿で五月二十二日から二十四日の二泊三日で開催されました。そこは有名な星野富弘美術館と日本最初の公害発祥の地「足尾銅山」がある処です。今年の大大会のテーマは「大聖年に向かって特に『聖霊』について学び語り分かち合い、私達一人一人のなかに居られることを自覚したい。」とお話で、二日目に参加した私達は残念ながら伺えませんでした。

二十三日(土)朝七時二十分、戸塚駅を出発した同行十二名、東武浅草駅から相老駅経由でわたらせ渓谷鉄道に乗り換えた。小さな二輛連結の電車は「早春から秋口にかけて山桜、岩たぼこ、山吹等が咲き乱れ、日本鹿、たぬき等線路付近迄出迎える」とパンフレットで紹介されており、期待していたのに、素朴な田園風景にほっとしている間に神戸(こうど)駅に着いた。

草木荘に着くと早々にNRCの方々、先着の婦人会の皆様と合流、草木湖と富弘美術館に向かった。富弘さんは不慮の事故に遭いふるさと東(あずま)村に帰って、四季折々の野の草花を、口に筆をくわえて描いた。水彩の詩画を通して生命の尊さ、やさしさを語り綴り、切々とした詩に心打たれる思いだった。——「ひなげし」『花が上を向いて咲いている。私は上を向いておている。あたりまえのことだけど神様の深い愛を感じる。』富弘——動けないで自身と草花を友達のように思い、この身になってよかったと語る心情に感動したのでした。

足尾銅山では当時の排煙で草木が枯れガレキの山になり、多少の草木がはえている現状を見た。足尾で昔造られた寛永通宝「足字銭」をつくる様子が人形で出来ていたり、坑内に入って鉱石を掘る坑夫を人形で再現され、カンテラの僅かな明かりと壁を伝う水が湿気を含み、当時の大変さを皆感じ取りました。

ホテルに戻り、懇親会が始まりNRCの方々を紹介された。カラオケも始まり、以前ジュリア祭で習った「マリア様音頭」を踊ることになった。記憶をたどりつつ、判る人に身振り手振りを教わりながら、何とか踊り終わった時はほっとした。マリア様で片膝を立て、両手を揃えて斜めに差し上げるラストは、何とも微笑ましくて楽しい。

翌朝八時出発、桐生修道院に着きごミサに授かった。小雨の為十字架の道行は中止となった。ドイツ村に寄りバーベキューの昼食をとり、散策の後バスに戻りJR高崎駅に向かった。ここで草津温泉行きの人達と別れ、私達は帰路についた。充実した二日間を主催して下さったNRCの方々、またお世話をかけた婦人会の皆様感謝しつつ、拙い筆を置きます。



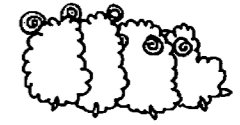
要理からのお知らせ

要理委員 石井 悠子

皆さま方最近前列の子供の席がいつも空席で、さびしく思われておられませんでしょうか。また幼児室が最近にぎやかになってきております。そこで、下記の要領で、月1回小さい子供さんたちの集まりを持ちたいと、神父様ともご相談の上計画してみました。

記

日時: 毎月第4土曜日 午前11時~12時
 場所: 中和田教会 新集会室(1F)
 指導: 青柳 恵代さん 婦人会委員 阿部 洋子さん 青年会 美底さん他、幼児の父兄



内容: 第1回を6月27日に開き、子供達は目をかがやかせて紙芝居を見たり、「神さまといっしょ」、「マリアさまの歌」を歌ったり、聖堂では十字のきり方等々いっしょけんめいしました。そして子供といっしょに参加下さった父兄の方との話し合いももちました。今後色々課題はありますが、みんなで協力しあって、子供と共に成長していく、そして信者の子供だけではなく開かれた教会としてお友達にも声をかけ年齢問わず誘って実りある楽しいひとときをしたいものとスタッフ一同前向きに、継続してゆきたいと思っております。皆さまがたの暖かいまなざしと、お祈りをお願い致します。